日本抗加齢医学会
JAAM Japanese Society of Anti-Aging Medicine

2023 年 11 月吉日

報道関係各位

一般社団法人 日本抗加齢医学会
広報委員会事務局

# ＜ご案内とご参加のお願い＞

# 2023 年度第 3 回日本抗加齢医学会 WEB メディアセミナー

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
一般社団法人 日本抗加齢医学会は、12 月 7 日（木）に下記のとおり 2023 年度第 3 回 WEB メディアセミナーを開催いたします。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。
なお、ご参加の登録はオンラインにて、2023 年 12 月 6 日（水）までにお願い申し上げます。

敬具

記

2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症になると推定される中、今年 6 月に成立した認知症基本法において、「認知症・軽度認知障害の早期発見・早期対応の推進」が基本的施策の一つに掲げられるなど、その重要性が増しています。また、資産面においても、認知症が進行してからでは管理が難しくなることから、早めの備えが必要です。
早期発見に対する取り組みの最前線と資産面での備えについて、3 人の先生にご講演いただきます。

◇ 日　時 ： 2023 年 12 月 7 日（木） 15:00～16:30
◇ 会　場 ： WEB（Zoom ウェビナー） ※お申込み登録のご返信にて、視聴用 URL をお送りします。
◇ 参 加費 ： 無料／事前登録制
◇ 司　会 ： 尾池 雄一 先生（日本抗加齢医学会広報委員会委員長
熊本大学大学院生命科学研究部分子遺伝学講座 教授）
◇ 参加登録用 URL ： https://www.anti-aging.gr.jp/ci/seminar231207/
（QR コードからもご登録が可能です）

15:00～15:30 AIや多様なデバイスを活用した認知症診断
山下 徹 先生 （岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学講座 准教授）

15:30～16:00 アイトラッキング式認知機能評価法の開発と社会実装・海外展開まで
武田 朱公 先生（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 寄附講座 准教授）

16:00～16:30 資産管理と認知症
成本 迅 先生 （京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学 教授）

ご参加にあたってのお願い
- 本セミナーは、Zoomウェビナーによるライブ配信となります。著作権は日本抗加齢医学会に帰属します。講義の録音・録画はご遠慮ください。
- 無断でのご利用、第三者の閲覧はお断りします。WEB配信における情報の取り扱いにご協力をお願い申し上げます。
- 情報を利用しての情報配信、記事化は講演者の承諾を得たうえでお願いいたします。

演者へのご質問について
Q&A機能を使い、司会あてにお名前、ご所属先、質問事項をお知らせください。
頂いた内容を司会より質問させていただきます。多くのご質問をお待ちしています。

以上

＜本件に関するお問い合わせ先＞ 日本抗加齢医学会 広報委員会事務局 担当 平山
TEL ： 03-5651-7500 E-mail ： pr@anti-aging.gr.jp

日本抗加齢医学会
JAAM Japanese Society of Anti-Aging Medicine

# 2023年12月 7日(木) WEBメディアセミナー 抄録

## 講演１：AIや多様なデバイスを活用した認知症診断

### 山下 徹（やました とおる）先生

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学講座 准教授

2001 年岡山大学医学部卒業。専門は脳神内科学、認知症や神経変性疾患、脳再生療法。海外特別研究員として米国コロンビア大学で学ぶ。2012 年から岡山大学脳神経内科教室で、認知症や神経変性疾患、脳再生に関する基礎研究・臨床研究を行ってきている。現在は認知症予防・治療に関する研究にも力を入れている。

高齢者人口の増加に加え、アルツハイマー型認知症患者に対する抗体療法が現実的になりつつあり、初期の認知症を簡便に診断できるスクリーニング検査の必要性が高まってきている。当科では近年、視線解析計を用いた新たな認知機能検査や AI を用いた認知症患者の見た目年齢と感情の評価、非侵襲的な光干渉断層撮影（OCT）検査を用いた網膜アミロイドの検出など、多様な手法を用いて新たな認知症スクリーニング検査の確立に挑んできた。本メディアセミナーでは最新の知見をご紹介したい。

## 講演２：アイトラッキング式認知機能評価法の開発と社会実装・海外展開まで

### 武田 朱公（たけだ しゅこう）先生

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 寄附講座 准教授

2004 年北海道大学医学部医学科卒業、2010 年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。その後、東京大学大学院医学系研究科特任助教、日本学術振興会特別研究員 PD、日本学術振興会海外特別研究員（米国ハーバード大学医学部）、米国ハーバード大学医学部・マサチューセッツ総合病院研究員を経て、2016 年より現職。認知症の実地臨床と基礎研究に従事。

認知症の急増は日本に限らず世界的な問題となっています。認知症は早期に発見し予防的に介入することが重要ですが、簡易なスクリーニング法が無いため早期診断が難しいという課題があります。私達は独自に開発したアイトラッキング式認知機能評価アプリをシーズとして大学発ベンチャーのアイ・ブレインサイエンス社を設立し、本年 10 月に日本初の認知症診断補助アプリとしてプログラム医療機器の薬事承認を得ました。現在、医療とヘルスケア領域での実用化、そして海外展開を積極的に進めています。

## 講演３：資産管理と認知症

### 成本 迅（なるもと じん）先生

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学 教授

1995 年京都府立医科大学卒。京都府精神保健福祉総合センター、五条山病院などを経て 2005 年から京都府立医科大学勤務。2016 年から現職。認知症専門医として大学附属病院やその他の病院で診療を行っている。日本意思決定支援推進機構理事長、消費者庁新未来創造戦略本部客員主任研究官、経済産業省認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ委員、日本老年行動科学会理事長。

認知症になると預金が凍結されるという話が世間で広まっているが、実際に備えなしに認知症に罹患すると資産管理に大きな支障を来す。われわれは、金融機関と共同で、高齢者の資産管理に金融機関が果たすべき役割について医学的知見を踏まえて検討している。高齢者との取引で能力を保証する方法や、金融機関における高齢者対応の取組、認知症に備える方法について紹介したい。

＜本件に関するお問い合わせ先＞ 日本抗加齢医学会 広報委員会事務局 担当 平山
TEL ： 03-5651-7500 E-mail ： pr@anti-aging.gr.jp